

新 新 新 新 新

三三三三三

双竹亭雜記

卯 辰 完 二

生麦を異人を叩つ斬つた刀とか、鳥羽
 伏見の合戦に官軍が持つてゐた鉄砲とかい
 う物を、片づ端のう集めてゐる人がある。
 とういおとちうか面白いかと訊いてみたら、
 なうにね、別にこれとソいわけは無いのだ
 か、市承知の通りのはずだから、なるだけ
 血なまぐさい物の方がよからうと思つて、せ
 いし集めに揃つたのさとの通ず。いほれて
 見ればこれもある一理當に違ひないか、さて
 趣味を便乗主義になつたの(の)で、たいか
 い肚の皮が見え透つて情けなく(の)うやない
 か。白といへば左様でござる。赤いといへ
 ば、~~赤い~~赤もつとち様で、頼りないこと夥し
 い。趣味は徒らな道楽とは根底が違ふの
 だから、行列のかわきまんが、電信柱の根



双竹書屋